

自然環境の保護

密猟対策

希少な固有種の動植物の密猟や採集は、やんばるの多様な生態系を重大な脅威にさらします。多くの場合、主な標的となるのは最も脆弱な野生生物種です；密猟によってその種が絶滅の危機に瀕したり、最悪の場合は絶滅してしまったりする可能性があります。密猟の証拠は、やんばる地域内だけでなく、ホテルや空港、ペットショップ、さらには海外でも発見されています。法律では特定の種を保護するために罰金や懲役が課されていますが、それでも密猟は森林の生態バランスに対する絶え間ない脅威となっています。環境省、林野庁、国頭村、大宜味村、東村の職員、警察、その他の関連組織や地域住民は、森の生き物を密猟から守るため、定期的に道路のパトロールを行っています。その他の保護対策として、パンフレットや広報資料を通じた啓発活動や、地域のボランティアとの協働なども行っています。

ロードキル対策の取り組み

多くの固有種や希少種の生息地を通るやんばるの道路では、多くの野生生物が自動車事故で死亡しています。日本唯一の飛べない鳥、絶滅危惧種のヤンバルクイナでは特に早朝や夕方に、夜行性のケナガネズミでは夜間に事故が多く発生します。一部の地域では、動物による道路横断を減らすためにフェンスや地下道が建設されています。地元住民と観光客の両

方にこの問題を知らせるための啓発活動として、事故が起こる可能性の高い現場にはドライバーへの警告標識が設置されています。

侵入種の侵入阻止

侵入種の動植物が生態系のバランスを崩し続けているため、やんばるではこれらの動植物の蔓延を食い止めることが必要となっています。重要な対策の 1 つは、この地域の生態系を破壊しているマンガースの駆除を目的とした柵や罠の使用です。他の行動計画は、野良猫の排除と飼い猫の管理に重点を置いています。乗り物や衣服を介して急速に広がる可能性のある侵入植物も脅威となります。そのため、特に有害な種の早期発見と管理の改善により、その影響を最小限に抑えるための取り組みが行われています。

希少種の個体数増加

ヤンバルクイナの飼育繁殖の取り組みや地域住民への啓発活動など、希少種の個体数を増やすためのプロジェクトが行われています。ノグチゲラの生息数と繁殖状況の調査が進められており、その生息地の一部は保護区域に指定されています。その他の種としては、ヤンバルテナガコガネの生息地の調査などが行われています。